

スレイブ アスナ オビデマンド

SLAVE ASUNA OF DEMAND
SWORD ART ONLINE ASUNA YUUKI ONLY FANBOOK 002 // BOOK-2 PLEASURE SLAVE.



This book is only for NTR manlaxl



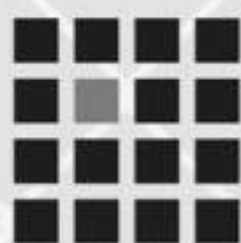
002



スレイブ アスタ オビテマード

002

SWORD ART ONLINE ASUNA YUUKI ONLY FANBOOK 002 // BOOK-2 PLEASURE SLAVE.



DIEPPE
FACTORY
DARKSIDE
2012
WINTER

■■■ここまでのお話■■■



脳内操作により性感を著しく高められ、牝の本能が決壊寸前のアスナさん。



オベイロンのイメージを強く刷り込まれ、性感を著しく刺激されるようにも操作された脳は彼のモノを見るだけで…もう…

私…もう…アスナに…さからえない



脱走を図ろうとしてナメクジに捕まり檻に連れ戻されたアスナさん。

理解が早くて助かるよ

薬にも継る思いからか自身の開放と、キリトと会わせるのを条件に、分の悪いだろう賭けに乗ることに。



そして…彼女は……

それでは続きをどうぞ。



そして…

ああ…
あんなに熱い…
それだけの思い…
詰めこんだはず…
疼きが溢れる…
あんなに熱い…
止まらない

実に感激だねえ、あの閃光のアスナが

おっと… ティーターア

肛門を割りなげられる 鮮烈な快感と

自分から取すかしい場所に…
ピンとくわえ込んでいく

その瞬間にアスナは…
美少女のノリで…
あんなに熱い…

あんなに熱い…
あんなに熱い…

「風タガが外れたら…
乗ちるのはあつとどうも…



アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

えい
えい
えい
えい
えい
えい
えい
えい
えい

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ





PREFACE

あるびーぬでございます。
ALOアスナNTR本後編でございます…が、
なんだかNTRとはちょっと趣が変わってきた気も…(:▽:)

とまれ本人NTRが素人ないにそのつもいで描いてまあと
どうぞ読んでやってくださいませm(__ __)m



Book.2

pleasure
Slave

あ……それは……



う……

俺は……いつたい……

はー

ふ……やごと
目が覚めたか

こんな時に
ノムネは

英雄にしてははずいぶん
おめでたいねえ



どうしたんだい
SAOの英雄も……では
無能なガキで誤かい？

お前……須郷か？

妖精王オベイロン様と
呼びたまえよ



キミのようなクズが
這いつくばって謁見
できただけでも光栄
に思え

……といかんかん

君にはあちらの方が
効果的だったな

な……にを

ククク……まあ
すく……わかませ

!!?



く……う

アスナ

そんな……

どうかな……この服
懐かしさ……

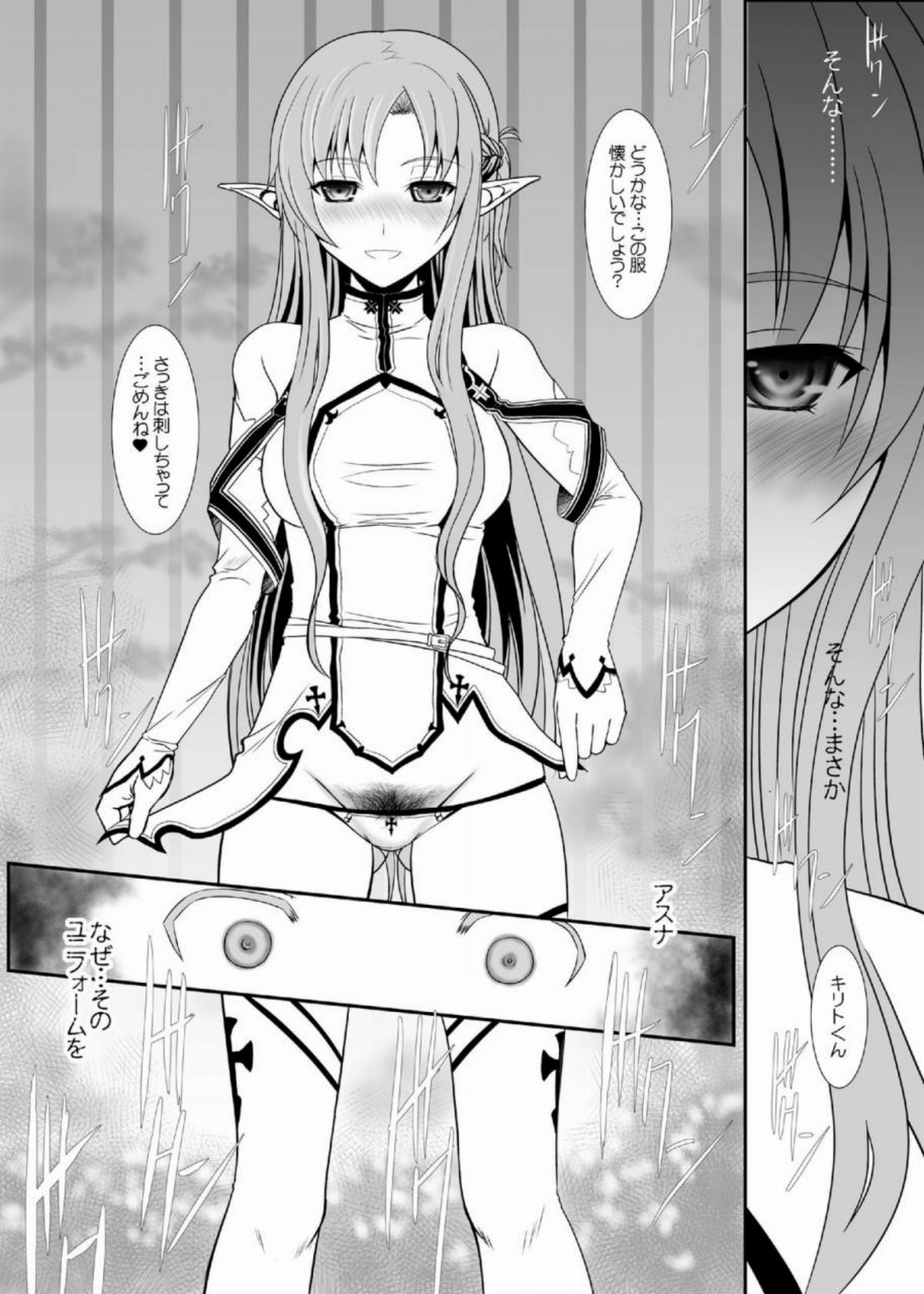
……ごめんね

そんな……まおが

キ……

アスナ

なぜ……その
ヨラオームを



クフ…クフ…どうだい
素敵な僕の演出は？

SAO時のアバターを
掘り出したんだのね

あん♡

君の愛しいアスナ君の
今を知るにはこの方が
うっせつかなら思ってる



小蠅な君がごまかして
たどり着いたまの褒美に
楽しんでほしいわね



さあ
ティターニア

はっ♡



おっ

おっ

あ…アスナ…

キリッ

まだボーッとしてる顔だね



なんで…あんな事を
それに…これは…

なんで…大事な
ご命令だったから
仕方なかったんだよ

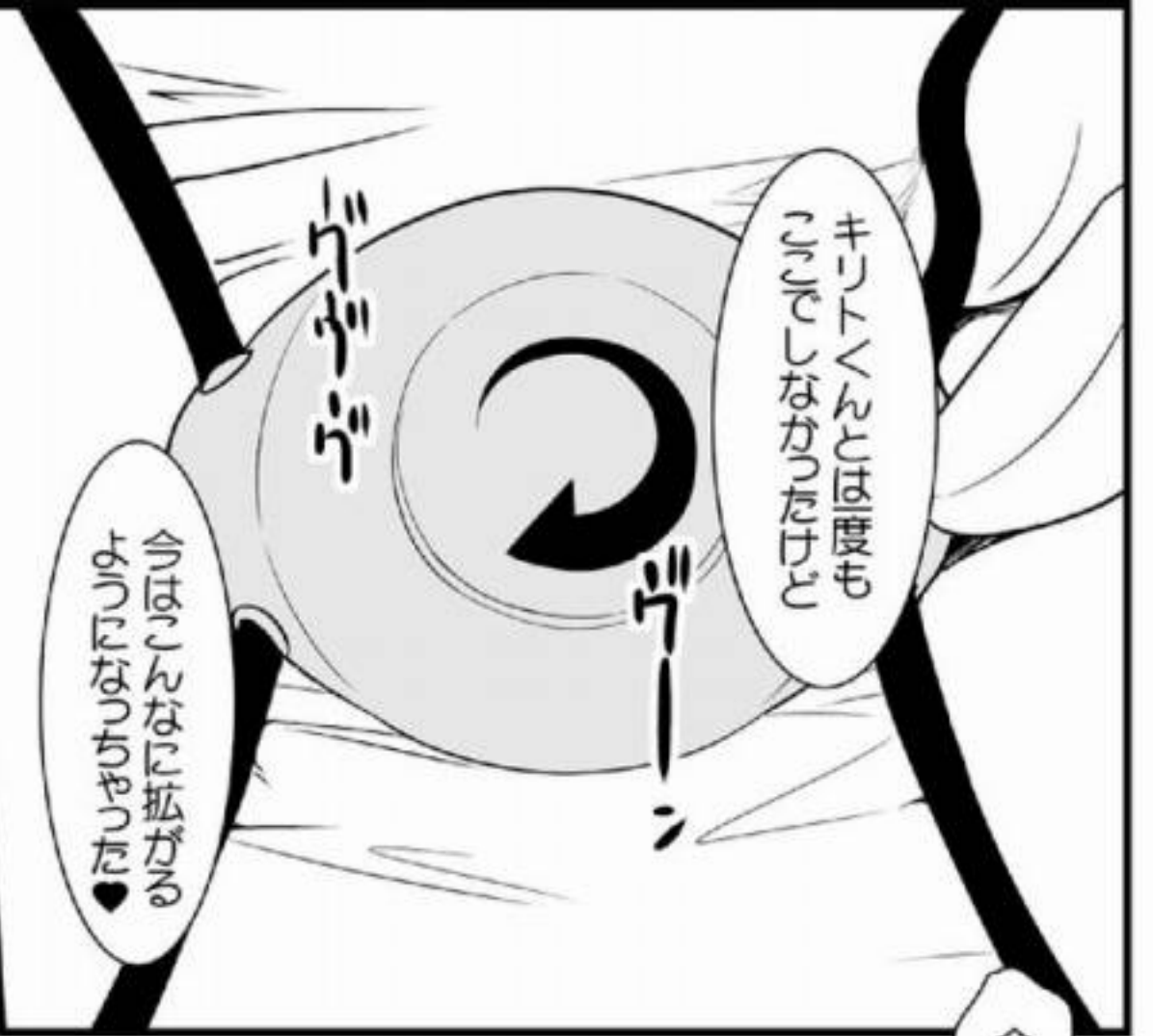
そんなことより

ほらっ
ちゃんと見えるかな？

ハム

私のお尻…ケツの穴
ぶつと栓がすぽぽい
ハムちやこてるんだよ





キリトくんとは何様も
どうもしなかなかったです

今はこんな下駄が
かかるとはなかなかに
いいな



どうもありがとうございます
お返事は後ほど
させていただきます



今もね...

お尻の中で
ずんずん振動してると
感じがするのよ

はーはー

はーはー

はーはー



あ

キキキキキキ



キリトくん
わたしのスケベな
姿を見てこんなに
してくれただね

うれしいな



ねえ...
キリトくん

キキキキ

わん

わん

わん



ご主人さまの命令で
わたしがこのように
寝かせて頂いていたか
教えてあげなさいって…



あ
もう映って
ますか？

じゃあ
始めますね



だから…
これを…見てね

アッ！！



キリトくんにはおとなの
心配かけちゃって
ごめんなさい



アスナです
わたしのママ

わたしはせんせん
大丈夫だよ
ママの暮らしては
とてもステキだから



キリトくん…
見てるかな

だって…オベロン様
ご主人さまにね
たくんがわいがって
まじつてから



ママすくがそれが
過ちだったと
気付かされたの

ご主人さまの
チノホには
逆ギレないで

そしてわたしは
ご主人さまに
飼って頂くことを
誓ったの

最初の頃のわたしは
ご主人さまにすくく
反抗的だったわ

それからはいくとも
ステキな時間だった

自分でも知らなかった
わたしのキモチいい
ところをたくさん
知ることができた

わたしにとっても
初めての場所だった
お尻の穴...

お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...
お尻の穴...

時間をかけてたつぷりと
開発していただいて

ただの排泄用だった穴...
ここには飾りだけが
なかったこのケツ穴も

文尾専用のケツマンフレ
舐けて頂いたの





食事もね…ご主人さま
手すからわたし専用にお作りになった工けを
与えて下さったわ



夢中でむさぼり食い
ながらも腰回りの
疼きが止まらなくて…



わたし好みに味付け
された中…かすかに
感じるご主人さまの
精液の味



食事の余韻に癒える
ご主人さま…すっ
それはさっ…



でもね…これはまた
オードフルみたいなもの

こうして常に
ご主人さまのことが
体に…心に刻み
つけられていくの



アバターの中では
ありえないはずの便意

そして妊婦のようだと
膨らんだお腹から
ひり出されるのは



食事すら
調教の環なの

アッ

アッ

がぶ



アッなの...



うんごとはまるで違う
わたしのお尻を蹂躪し
調教するだけの
ゼリー状のテイルト

アッ

アッ





だがねえ
彼女の本性は
こんなものじゃ
ないよ

女々もまあ飽きないもの
と感心するわえ

まったく…
汚れてもいないのに
放っておくと半日も
ケツ舐めし続けろしめし

そんなこと…
そんなところを
俺には度だつて…

おかげでいつも尻周りが
涎まみれだよ…ウクウク

よく見たまえ

あ…アスナ!?

タマを転がしながら
肛門をいじり始めた

自分が感じてるこのことを
自然に奉仕するのよ
なつたみたいだが

ケツ穴あ

おケツ

んやー

んん

んん





アスナ…



わざとか…わざと俺に見せつけてるのか

わんわん



なんだよ…
そのらしくない
下品な顔

クソクソ



こじちを見て…

もも



この変態女が

あんっ…
そんなあ…



いじわるいぶん
夢中になってたねえ
どうしてかなあ？

だつてえ…
キリトくん
見られてる
思ったら

まじだん…
キミの変態ぶりには
僕もいささかあきれ
気味だよ

ソクソク…まじだん
ホーソクソク…



まじだん

えっやだっ

まじだん





ああ…太い…う



ケ…め…わ…る…



その時アスナから吐き出されたモノは

どうやって腹に収まっていたのか判らないほどの人ではありえないサイズのものだった

そして…同時に魂まで抜けてしまったかのような彼女のだらしない顔…



だが…

そんなやりとりを聞きながら…過去の記憶を蘇らせていた

ダメ…暗くしてないところかさない

だっ…恥ずかしいんだもん

あれほど見せるのを恥ずかしがって暗がりで見せてくれなかった場所

キリトくんが知ってる私の体じゃない…よね

でもねこれが現実での私なんだよ

見て…キリトくん私の体を…

キリトくん…

こんな状況でも伸びきりお尻…お尻の毛もいっしょに生えちまうって

アスナ自身の手で見せつけるように押し上げたソコは

あゝあゝ





でも…そんな私をご主人様は受け入れてくれた

くたくたに
くたくたに
くたくたに

私も自分のことが下品であまり好きじゃなかった

下品なままがいいと言ってくれたの♡



どっ!?
幻滅した?



いいしすぎて厚くよじれた
ドロドロに

ほとんど手入れしなくてお尻にまで生えた陰毛…

みんな本当の私…
結城明日奈の実像なの

むに、
いい、
いい、



それに

彼女自身のおねだりで現実の彼女の肢体も充分参考にできたしねえ



あん…っ

そう…そして僕が彼女の真実を忠実に再現してあげただんだよお

広げちゃだめだよっ





この子は君が思っている
以上にはかたいわね

リアルで僕に見られること
思ったのか…股間はもう
あふれ出したマン汁で
ぐちよぐちよだったよ

ケツ毛に絡まった白い
本気汁…とてもキレイで

トロロ
キリッ
ク…ク



ああ…やだ…あ
恥ずかしいです
それは言っちゃだめえ

アスナの
リアルまんごを
知ってるのは
ご主人さまだけ
なんですからあ♡



せつかんだから
こちの手入れされて
いないワキ毛も



ちやあんと再現
してあげたんだよ

びちゃ

びちゃ

あー

あー



あっ



キリトくんのあちんぽ
きつきより大きくなっだろ



ふふ…君の下品メンコ
をずいぶん気に入って
くれたみたいだね

はっ
ちんぽをぶささる



だっ…と…ちんぽをぶささる
すっく切ないだっすよ

もう我慢できないのかい

キリトくんを興奮させて
おちんぽの大きさをかせたい
からあ…だからあ…



キリトくん
ほっほっほ…



あっ…だめ

この巨根を
見てみなよ



これはねえ…僕ではなく
アスナ自身のリクエスト
なんだよ

言わないでっ

惨めさと絶望に押し
つぶされそうになる

そんな俺に
奴はまだ



キントウニモあな
ニシテ来ナン

あー

てせわれもておもてんじや
きし我儘てきなうから
貞操帯がわがしうしうしな

あー

健気だねえ…本当に妬ける
今の君の気分と同じかもねえ

あー

あー

あー

あー

キントウニモあな

ご主人さま…焼きもち
とかつてちよつと予定
狂っちゃったけど…

ご主人さまひとついっ
内緒しう言ひたのて

まあいいじゃないか
軽い焼きもちだよ

ほら取れた

あ…

うごめびて…ういせ

ん…

ん…ん…ん…

ちやんご…聞ていね





私……結城明日奈……は
キリトくんの奥さんなのだ

ご主人様のデカちゃんぽを
負けて服従してしまっただ
ケツマン「奴隷……です！」

これから……番愛して
キリトくんの目の前で……

ご主人様におちんぽを
ハメて頂ぎ……マン「奴隷に
スキル……アップするのを

最後まで見て……
頂ぎます

あーあーあーあーあー
あーあーあーあーあー

んんんんんん
……んんんんんん

んんんんんん
……んんんんんん



今は奥…ホルチオが
スイッチだからねえ

ほら
スイッチだね



あー

はっはっ
おっおっ

おっ
おっ



おまんこ

おっおっ

おっおっ

チンポっちんぽで
ゴソゴソっれされへっ



アミルナ

なりまひゆい
なりまひゆい



あ
あ
あ

うわ



なりまひゆい
なりまひゆい

これは...誰...だ?

こいつは僕の奴隷
なれさうかい?



あ
あ
あ

あ
あ
あ





イヤッ 何がさあ
チンポすのいひゃあ

しきゅ〜
ポルチオいひゃあ



あひゃあ

あひゃあ

凛々しく強く聡明な
アスナと違つて



んんんんんんんんんんんん
あチンポだけわわわわ

あめ...
めい...
あひゃあ

アスナ...そつくりの娘が
...何か...言つてる...



んんんんんんんんんんんん

だらしなく下品で...
淫猥な女の...子が...

わわ...わわわ

あひゃあ

あひゃあ

あひゃあ

あひゃあ



ほ...あんな小蠅
なとて...もいたるん

んんんんんんんんんんんん

あひゃあ



このまま瞳出してやるからなこ!

いいよ...こんなのは...

わんわん
よんよん
わんわん

瞳出しさされたいつ
瞳出しでイキたいっ



こい...こいはどっ
行ったんだ...こい...

早く出ていよ...
そして一人で

早く出ていよ...

あいつ
そいつ

そいつ
そいつ

ガッ
グッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



おれんじ...なにがこ
ろかわかひまじい...あ...

キリトくん...

私の種付けおまんこ
ちゃんと見てくれた？

キリトくん...

アスナを...
探さなくちゃー

キリトくん
まだ終わってないよ

うるさいなっ

見て...

もういいって
言ってるだろ

俺はユイと一緒に
アスナを



君も度々くさいは想像
したんじやないかい？

まあ…せつかくだからねえ
将来僕の種を孕んだ妻の
軽いシミュレーション…と
いう訳さ

たぶ

ぬぶ
ぶぶ
ぶぶ



探し…に

うわああああ



あーあーが
スースーする

もともと妻といふものは
従順な肉奴隷のほうか
ぶさわしいけとねえ

あーあー…あーあーなるよ
うわああああああああ
彼にもお礼をしてあげなよ

HIP

愛しい恋人相手に
その反応はないだろっ

あーあー
あーあー
あーあー
あーあー
あーあー

はい

キリトくん…こんな
わたしを愛してくれて
今までありがとうね

これ…キリトくんが
見たがうてた
ハメピースだよ

キリトくんのチンポじゃ
ないけど…やっ!
しつめげられたあ

わたし…今でも
キリトくんが一番好き

ん…たぬの

わたし…もう
ご主人さまの
所有物だから

ご主人さまの子種を
孕まないといけないの

だから…うぬね
あわび…うた

うん

見せてあげられた

それにね...もうじぎって
孕んでみてわかった

ご主人さまの...
子供が欲しいって

子宮が...メスの
本能がそうしちゃう...
疼いちやうの

精液たくさん...何度も
孕むまでアスナに種付け
おまんこしてくださいね

そうか...僕の子が
そんなに欲しいのか

はい...ご主人さま...
すごく欲しいです

はい...それステキ
おれは嬉しく思います

ふんふん...うたせ
キントウをいれおれなご
さわれたおれはもういじ

SAOはシステム
的のためにはおれは

やっぱ...

あれ...?

ホルモンのアスナ
だった...よ

面白そうだから
こいつも洗脳して
明日奈の護衛兼
従僕として飽うのも
面白いかもねえ…

ククク

わあ…おじいちゃん
キリトくん
いつしよなんだあ
…うれしいなあ

ご主人様あ…
ありがとうございます
ございます

大好きですっ…
愛してますっ

クク…いいんだよアスナ

だから君も彼に
見守られながら
安心して僕の種を
孕むんだよ

はっ

続きは
2月サングリ
予定です。

もうちょっと
続きます。



おくづけ

ここまで読んで頂きありがとうございました。

今回は前後編通してifの話…ギャルゲー形態でしたなら最悪のバッドエンドの一つっていう感じでこの話は作られました。当然こんなストーリーは本編と違う別のアトラクタフィールド@シュタゲの彼方にあるかどうかってくらい極地にあるだろう話なので、この話を読まれて心を毒されました際には本編4巻後半部などを読み返されて、カタルシスに浸りつつリフレッシュされるがよろしいかと存じます。

後編はオベイロンの手に堕ちたアスナがキリトの目の前でNTRてゆく…という展開を狙ったんですが、目の前で堕ちていく過程ではなく、すでに堕ちきらせた状態ってのはちょっと失敗だったかもですね。

実際のところ、こういった話を作ったのは初めてなもので、当初はオチというかエピローグにスティング風どんでん返しな逆転劇を用意して…というのも考えていたんですが、どっちつかずの中途半端は却ってよろしくないとのアドバイスを友人に頂いたりもして、結局そのまま最後まで救いのない方向へと突っ走ってしまいました。正直…堕ちていくというか、アスナがじわじわと心変わりしていく様子を力不足ゆえに描き切ることができなかったのは非常に心残りであります。リベンジの機会が今後来るかどうかは判りませんが、もしまた見かけることがありましたら、どのくらい改善されたか生温かい目で見てもらえたら幸いです。

…とはいえ、今回描ききれなかった部分がまだ少し残ってたりもするのでもうちょっと続きを描きたいなという気持ちがあくすぶってたり(汗)

もしまたこれの続きっぽいのが出てましたらよかったら読んでやってくださいm(_ _)m

それでは、こっち名義ではそれほど発行頻度が高くはないですが、またどこかで見かけましたらどうぞよろしくお願いします。

あるぴーめ2012

P.S シンセシス・フィフティ (あれ?) が無性に描きたいです…。

※なお、表紙のアスナがアルフでもウンディーネでもなくKoBのユニだったのはこういう事だからでした。それと、ちょっと胸増量し過ぎたかも…まあオベイロン様の趣味ということで(汗)

COLOPHON

スレイブ アスナ オンデマンド
#002. PLEASURE SLAVE.

◇2012.12.31初版発行◇

◇発行 DIEPPE FACTORY Darkside◇

◇印刷 POWERPRINT◇

◇18歳未満の購読及び所有等の禁止◇
禁無断転載

◇Mail// alpine@dieppefactory.com◇

◇web// <http://a442b.blog94.fc2.com/>◇



Σ Λ Ο ΣΛΑΒΕ ΑΣΥΓΓΑ ΟΥΔΕΤΑΛΩΝ Ο

002



DIEPPE
FACTORY
DARKSIDE
2012
SUMMER